情報通信審議会　情報通信技術分科会　ITU 部会

地上業務委員会（第 41 回）　議事概要（案）

１　日　　時　平成 29 年 2 月 1 日（水）14:00～15:40

２　場　　所　合同庁舎 2 号館　総務省地下 2 階　第 1、2 会議室

３　出　席　者（敬称略、順不同）

［専門委員］

小川　博世（主査代理）、足立　朋子、飯塚　留美、小笠原　守、上村　治、小泉　善子、阪田　史郎、佐藤　孝平、田北　順二、橋本　明、松永　彰

［関係者］

新（NTT ドコモ）、石川（日立）、表（ソフトバンク）、菅田（KDDI）、硎（NTT ドコモ）、本多（エリクソン）

［事務局］

（移動通信課新世代移動通信システム推進室）中村、山内、小橋、武田

４　配　付　資　料

資料地－41－1	地上業務員会（第 40 回）議事要旨（案）
資料地－41－2	ITU-R SG5 WP5D 第 25 回会合報告書（案）
資料地－41－3	ITU-R SG5 WP5D 第 26 回会合への日本寄与文書（案）
資料地－41－4	ITU-R SG5 WP5D 第 26 回会合への対処方針（案）
参考資料 1	ITU-R SG5 WP5D 第 26 回会合の開催案内
参考資料 2	ITU-R SG5 WP5D 第 26 回会合の日本代表団一覧
参考資料 3	地上業務委員会構成員名簿
参考資料 4	情報通信審議会 諮問 新世代モバイル通信システムの技術的条件について

５　議　事　概　要

（１）　地上業務委員会（第 40 回）議事要旨について

【資料地-41-1】

地上業務委員会（第 40 回）の議事要旨について、事務局から説明があった。

（２）　ITU-R SG5 WP5D 第 25 回会合等の報告について

【資料地-41-2】

事務局から、ITU-R SG5 WP5D 第 25 回会合等について報告があった。

（３） ITU-R SG5 WP5D 第 26 回会合への日本寄与文書（案）について

【資料地-41-3-1】

NTT ドコモ 新氏から、「回章 5/LCCE/59 の追補版 2 に向けた作業文書への修正提案」について説明があり、以下の質疑応答があった後承認された。

橋本構成員　ワークショップ及び10月会合の場所は決まったのか。

新　　氏　ドイツに決まった。

橋本構成員　そういった情報もこの回章に入るのか。

新　　氏　ご指摘の情報はWEBページに掲載されることとし、そちらへ誘導する形になる予定。

小川構成員　日中韓の共同寄書ですが、他国との調整は終わっているか。

新　　氏　終わっている。日本での承認を待っている状況。

【資料地-41-3-2】

KDDI 菅田氏から、「新報告草案 M.[IMT.EXPERIENCES]へ向けた作業文書の改訂提案 「IMT に特定された約 1GHz 以下の UHF 帯における地上 IMT の使用に関する国の経験」」について説明があり、以下の質疑応答があった後承認された。

橋本構成員　700MHz帯に関する日本の経験としていいたいことはこれで網羅されているということでよいか。

菅　田　氏　そのとおり。

橋本構成員　1 Introductionの４行目の”these”は何を指すものか。

菅　田　氏　その上の”experiences”のことである。この文章はワークプラン等でも用いられているものである。

【資料地-41-3-3】

KDDI 菅田氏から、「新報告草案[IMT.BY.INDUSTRIES]へ向けた作業文書の改訂提案 「産業セクターによる IMT 地上コンポーネントの使用」」について説明があり、以下の質疑応答があった後承認された。

橋本構成員　Introduction 3行目英語の鍵括弧の中は”title”ではない。Industry sectorsを日本語に訳すとどうなるのか、ITSなど他のアプリケーションを含める訳だが。「産業セクターによる使用（use by industry sectors）」の訳は違和感がある。利用するのはあくまで利用者。また、IMT（International Mobile Telecommunication）は複数なのではないか。Telecommunicationsとすべき。

菅　田　氏　Titleをprovisional designationに修正する。

小川構成員　WP5Aへのリエゾン文書だが、どういう趣旨で情報交換が有用と考えているのか。WP5Aでは鉄道の安全運行の観点で鉄道無線の議論を行

っているが、そのあたりの情報か？

菅　田　氏　そのとおり。

小川構成員　GSM-RやLTE-Rといった技術がWP5Aで紹介されているので、そのあたりの情報が出てくるかも知れない。

小川構成員　Collision avoidance radar等についてもWP5Aで議論をしている。この当たりについても情報を求めてはどうか。

菅　田　氏　本報告の内容が万遍なく含まれるようにしたいと思う。

佐藤構成員　Industry use の話だが、議論の中では vertical ではなかったか。

石　川　氏　当初はverticalで議論がはじまったが、移動業務側からの見方ということで対象産業側の見方を考慮し、それを避けるためこの言葉になった。

事　務　局　automated drivingといったりautonomous drivingといったりしているが、automatedなどに統一してはどうか。

菅　田　氏　サブセクションのタイトルについては今のところautonomous driveで進んでいるため、ひとまずこの状態で進めたい。

小川構成員　本文のタイトルを修正し提出することとしたい。

【資料地-41-3-4】

日立製作所石川氏から、「新報告案 ITU-R M.[IMT-2020.TECH PERF REQ]に含まれる技術性能要求条件項目に対する要求値の提案」について説明があり、以下のコメント及び質疑応答があり、特段の質疑なく承認された。

橋本構成員　パラメータについて、新たに提案するものもあるが、おおよそはスクエアブラケットを外し確定するものということか。そうであればwhich are not は残すことでよいと思う。

石　川　氏　スクエアブラケットを外し確定するものである。

【資料地-41-3-5】

NTT ドコモ 新氏から、「報告 ITU-R M.[IMT-2020.EVAL]のための評価手法及び構成」について説明があり、特段の質疑なく承認された。

【資料地-41-3-6】

ソフトバンク　表氏から、「チャネルモデルにおける 6GHz 以下のエクステンションモジュール」について説明があり、以下の質疑応答の後承認された。

橋本構成員　この提案は、ITU-R 報告[IMT-2020.EVAL]に対する一部の修正提案ということか。

表　　氏　そのとおり。

橋本構成員　修正される文書は、先ほどの提案と同じと言うことか。

表　　氏　そのとおり。

橋本構成員　タイトルにITU-R報告[IMT-2020.EVAL]の修正提案であることが分か

るよう、何の付録なのか書くなどすべきではないか。先ほどの提案の 8.5 後の Japan's note では、本文のこの先に提案なしと書かれている一方、この提案では、本文添付 1 と付録 1 には提案がないとかかれているため、調整をしてほしい。

小川構成員　先の提案とタイトルを一緒にして、この提案は特に付録の修正ですと明記するのはどうか。

橋本構成員　本来であれば同じレポートであるから一本化すべき。

小川構成員　一本化するか。

新　　氏　前回も同じ議論があったが、本文と付録で議論される場が違うことから寄書を 2 件に分けている Japan's note の記載で対応するのではどうか。

橋本構成員　タイトルではっきりと記載しても良い。

表　　氏　タイトル Japan's note のそれぞれに、付録 2 に関する修正提案である旨を記載するようにしたい。

【資料地-41-3-7】

NTT ドコモ 新氏から､｢新報告草案 ITU-R M.[IMT-2020.SUBMISSION]に向けた作業文書の修正提案」について説明があり、特段の質疑なく承認された。

【資料地-41-3-8】

エリクソン　本多氏から、「IMT-2020/2 文書(IMT-2020 Process)に関する改訂案」について説明があり、以下のコメント及び質疑応答の後、承認された。

足立構成員　STEP2 の 2 段落目の required number of test environments の説明がコロンの後どこまでカバーされるのか、インデント等をつけて明示すべき。

本　多　氏　承知した。すぐ下とその下の段落をカバーしている。共同提案を予定している中国とも相談の上対応する。

橋本構成員　この文書は今回最終化して発出となる。ITU-R 報告[IMT-2020.EVAL]を Footnote3 で参照しているが、本文書が発出されるのは[IMT-2020.EVAL]の最終化時期の前なのか。

本　多　氏　そのとおり。

橋本構成員　この回章を読む場合は、[IMT-2020.EVAL]を読むことになるので、例えば「議長報告の何番」を参照するよう書くなど、また最終化は 11 月の SG5 になると思うのでその辺も考慮するなど、会議で対応して欲しい。

【資料地-41-3-9】

エリクソン本多氏から、「IMT-2020 Workshop に関するリエゾンおよびプログラム案の提案」について説明があり、特段の質疑なく承認された。

【資料地-41-3-10】

NTT ドコモ硎氏から、「勧告 ITU-R M.1036-5 改訂草案に向けた作業文書の修正提案」について説明があり、以下のコメント及び質疑応答の後、承認された。

橋本構成員　前回も趣旨は提案してきて作業文書に反映されている。ITU-R勧告M.1036全体の改訂作業はいつ頃終了できるのか。

硎　　氏　進捗率は40%程度。上手くいけば今回で終わるし、次回に持ち越す場合もある。

橋本構成員　前会期も様々な帯域で多くの議論があった。今年中に終われば画期的なことなので、今回も精力的に作業を進めて欲しい。

橋本構成員　Discussionの部分は前回も提案したものだが、再度提案する必要があるのか。

硎　　氏　Lバンド提案の根拠までは作業文書に反映されていないので、冗長にはなるが会合対処のことを考え、改めて提案しておきたい。

橋本構成員　(2)、(3)は一般論だが、(1)は日本固有の議論であり、説得力をもつのか不明。なぜ市場需要を満たすのか、多少補強する必要がある。日本の市場規模についても言及する必要があるのでは。

硎　　氏　日本で使っているアレンジメントと同じアレンジメントになればFDDアレンジメントの市場が大きくなるということが言いたかった。表現を工夫したい。

橋本構成員　これで説得力がでるのか分からないが、より説得力のある表現を考えていただきたい。

小川構成員　2.1(1)を修正の上で提出いただきたい。

【資料地-41-3-11】

NTT ドコモ硎氏から、「WRC-19 議題 9.1.2 の 1452-1492MHz の IMT/BSS 共用検討に関する提案」について説明があり、以下の質疑応答の後承認された。

足立構成員　英文冒頭に”Yellow colour is proposal from Japan”とあるが、複数提案があると思われるので、proposal は複数形ではないか。また、その下の Editor’s note について encourage の目的語がないのと、contribute のあとの前置詞は about よりも to の方が良いのではないか。

硎　　氏　日本提案部分についてはご指摘のとおりであるため、修正したい。2行目以降の Editor’s note については現地の会合で修正提案をすることで対応したい。

橋本構成員　CPM テキストの提案の中に ITU-R 勧告 M[IMT.MODEL]とあるが、この勧告は最終化されていなかったか。

硎　　氏　昨年 11 月の SG5 では採択された。最終的な状況を確認したい。

小川構成員　番号が確認できれば新番号で、また、Attachment1 の一部を修正して、

提出いただきたい。

【資料地-41-3-12】

NTT ドコモ硎氏から、「WRC-19 議題 1.13 の共用および両立性検討のためのIMT-2020 運用特性に関する提案」について説明があり、以下のコメント及び質疑応答の後、承認された。

小川構成員　以前、郊外部の Network Topology and Characteristics は、距離で定義したが、今回密度に変更しているのはなぜか。

硎　　氏　前回は周波数帯ごとにセル半径を仮定したが、他国から、都市部以外の展開は現実的でないとの意見があった。一方、日本は都市部のみに絞るのは行き過ぎと主張した。今回、妥協点として、カバレッジ（セルエッジ、チルト）のような考え方をやめて、ホットスポット的にトラフィックを保証するのが妥当ではないかという考えに変更し、新たに提案したいと考えている。

小川構成員　BS の密度をかけているが、密度は人口に比例するという考え方か。

硎　　氏　都市部は東京、郊外部は札幌や福岡等の地方中核都市の平均人口密度を想定している。

【資料地-41-3-13】

NTT ドコモ 新氏から、「周波数需要に関する作業文書のまとめの章への修正提案」について説明があり、特に質疑なく承認された。

【資料地-41-3-14】

事務局から、「WRC-19 議題 1.13 のための IMT 周波数需要の質問に関する回答」について説明があり、特に質疑なく承認された。

（４）　ITU-R SG5 WP5D 第 26 回会合への対処方針案への対処方針案について

【資料地-41-4】

事務局から、ITU-R SG5 WP5D 第 26 回会合への対処方針（案）について説明が行われ、承認された。

（５）　その他

事務局より参考資料の説明があった。本日の審議を経て、修正の必要がある寄与文書については、2 月 3 日（金）を目途に事務局に提出することになった。また、承認された寄与文書について、大きく主旨の変更がない限りで文書案の変更の可能性がある旨、事務局から了承を求め、承認された。外国寄与文書の対応については、日本代表団を中心に外国寄与文書審議表を作成し、対処に用いることとする旨説明があり、承認された。

以上